

## 外来がん薬物治療患者に対するアンケートと、がん領域担当薬剤師育成の実例紹介

総合メディカル株式会社 そうごう薬局天神中央店

下川 友香理

外来がん薬物治療の効果を最大限に高めるために、保険薬局においても経口抗がん剤の処方鑑査、副作用対策を十分に行い、患者のアドヒアランスを向上させるファーマシューティカルケア(以下 PC)が必要である。そうごう薬局天神中央店(以下当薬局)では外来がん薬物治療患者の PC を標準化し、かつ質を向上させるために『外来がん薬物治療患者における保険薬局クリニカルパス(以下パス)』を開発、運用している。薬学的介入のアウトカムをパス使用前後の副作用確認率、疑義照会件数、疑義照会内容とし、パスの検証を行なった。その結果からは、本パスは外来がん薬物治療患者への PC の質向上に有用であることが示唆され、2018年3月の本学会学術大会にて報告した。今回、患者の視点からのパスの有用性を確認するためにアンケート調査を行ったのでその結果を示す。

また、質の高い PC 提供にはパスなどのハード面の整備とともに、それを運用するソフト面(人)の質の向上が欠かせない。2018年3月現在、保険薬局所属の外来がん治療認定薬剤師(以下 APACC)は全国で33名であり全体の5%と大変少ない人数であるが、当薬局には現在 APACC が4名在籍している。外来におけるがん薬物治療が増加する中、保険薬局の薬剤師が APACC を取得し外来がん治療の支援に貢献することは今後ますます必要とされると考えられる。当薬局で薬剤師育成の実例をお伝えすることで、APACC 取得を希望する保険薬局薬剤師の参考にならばと思う。